

<<第2篇「生産論」第1章「労働」・第2章「生産」のコメント：参考資料>>

資本主義経済の「社会的再生産」の「補填」と「取得」

I. 資本主義的経済の「社会的再生産」の諸前提

{ 1. 社会的生産の物量体系：[数値例(3)()] }

小麦部門 小麦 6 kg + 鉄 4 kg + 労働 6 h → 小麦 20 kg

鉄部門 小麦 8 kg + 鉄 4 kg + 労働 4 h → 鉄 20 kg

{ 2. 労働者の生活水準と支出労働量 }

小麦 5 kg、鉄 5 kg → 労働 10 時間

II. 価値体系の方程式と解

小麦に対象化された労働量を t_1 、鉄に対象化された労働量 t_2 、とすると、価値方程式体系は

$$6 t_1 + 4 t_2 + 6 = 20 t_1$$

$$8 t_1 + 4 t_2 + 4 = 20 t_2$$

[解] $t_1 = 7/12$ $t_2 = 13/24$

労働力の価値と搾取率・剰余価値率 e ($= m/v$)

$$\text{小麦 } 5 \text{ kg} \times 7/12 + \text{鉄 } 5 \text{ kg} \times 13/24 = 35/12 + 65/24 = 135/24 = 45/8$$

$$\text{労働力の価値 (時間あたり)} (45/8) \div 10 = 9/16$$

$$\text{必要労働時間 } 10 \times 1 / (1 + e) = \text{生活物資の価値 } 45/8 \quad 80/45 = 1 + e \quad e = 35/45 = 7/9 \quad \{ 1/(1 + e) = 1/(1 + m/v) = v / (v + m) \}$$

III. 価格体系

小麦価格 p_1 、鉄価格 p_2 、賃金率 w 、一般的利潤率 r とすると、価格体系は

$$(6 p_1 + 4 p_2 + 6 w) (1 + r) = 20 p_1$$

$$(8 p_1 + 4 p_2 + 4 w) (1 + r) = 20 p_2$$

$$5 p_1 + 5 p_2 = 10 w$$

相対価格 p_1 、 p_2 を賃金率で表示し、 $p^*_1 = p_1/w$ 、 $p^*_2 = p_2/w$ とすれば {時間貨幣賃金率 = 1}、上の価格体系は、次のようになる。

$$(6 p^*_1 + 4 p^*_2 + 6) (1 + r) = 20 p^*_1$$

$$(8 p^*_1 + 4 p^*_2 + 4) (1 + r) = 20 p^*_2$$

$$5 p^*_1 + 5 p^*_2 = 10$$

[解] $p^*_1 = 1$ 、 $p^*_2 = 1$ 、 $r = 0.25$

IV. 上の資本主義経済の「社会的再生産」における資本による生産手段の「補填」と労働者による生活物資の「取得」を、生産価格での売買を想定して、物量・価格・労働量の三次元でプロセスとして表示すれば、次のようになる。

[資本主義経済の「社会的再生産」の三次元（物量・価格・価値）表示]

		[投入]			→	[産出]				[産出の補填・取得の表示]				[参考：費用価格＋利潤での表示]			
		小麦	鉄	労働		[小麦部門]	[鉄部門]	[労働]	[剰余]		[費用価格]			[利潤]			
小麦部門	物量	6	4	6		20	6	8	5	1		6	4	6	4		
	価格	6	4	6	→	20 =	6	8	5	1	=	6	4	6	4		
	価値	7/2	13/6	27/8		35/3	7/2	14/3	35/12	7/12		7/2	7/3	7/2	7/3		
鉄部門	物量	8	4	4		20	4	4	5	7		8	4	4	4		
	価格	8	4	4	→	20 =	4	4	5	7	=	8	4	4	4		
	価値	14/3	13/6	9/4		65/6	13/6	13/6	65/24	91/24		13/3	13/6	13/6	13/6		

{補填・取得関係の説明}

- (1) 小麦部門の次期の投入・小麦 6 kg および鉄部門の次期の投入・鉄 4 kg は、それぞれ自部門の産出から補填される。(小麦部門の補填は、[産出の補填・取得の表示] の小麦部門の列に表示、鉄部門の補填は、[産出の補填・取得の表示] の鉄部門の列に表示)。
- (2) 小麦部門の次期の投入・鉄 4 kg の補填は、小麦部門の売上価額 20 のうちの 4 でもって、鉄部門の今期の産出 20 kg のうちの鉄 4 kg の購入 ([産出の補填・取得の表示] の小麦部門の列に表示) によって、補填される。当然のことながら、今期の投入・今期の産出・次期の投入という鉄の物量 4 kg は、価格 4 と価値量 13/6 についても、すべて同じ値である。
- (3) 鉄部門の次期の投入・小麦 8 kg の補填は、鉄部門の売上価額 20 のうちの 8 でもって、小麦部門の今期の産出 20 kg のうちの小麦 8 kg の購入 ([産出の補填・取得の表示] の鉄部門の列に表示) によって、補填される。当然のことながら、今期の投入・今期の産出・次期の投入という小麦の物量 8 kg は、価格 8 と価値量 14/3 についても、すべて同じ値である。
- (4) 労働者階級は、10 時間の労働支出に対して貨幣賃金 10 を支払われるが、それでもって価格合計が 10 である小麦 5 kg と鉄 5 kg と ([産出の補填・取得の表示] の労働の列に表示) を購入するが、小麦 5 kg と鉄 5 kg の価値合計 45/8 は、労働力の価値である。前提により、資本家は、小麦 5 kg と鉄 5 kg の売上価額 10 を、貨幣賃金として労働者に支払い、労働 10 時間を支出する労働力を購買可能である。
- (5) 資本家は階級として、小麦 1 kg と鉄 7 kg を剰余生産物として取得するが、その価額は 8 であり、価値は 35/8 である。
- (6) 利潤率の検算：総投資価額 32 に対する利潤 8 の 25%。剰余価値率の検算： $(35/8) \div (45/8) = 7/9$ である。

V. 結論：この資本主義経済の社会的再生産は、生産価格での商品売買を通して、宇野氏が主張する「労働力の価値」による「生活物資」商品の価値的買戻し関係であること、および、各部門の投入の生産手段の補填が価値量の補填（「価値どりの補填」）であることを示している。つまり、資本主義経済の再生産過程で、「価値規定」が「法則的展開」することが証明されるのである。

VI. 備考：上の資本主義経済の「社会的再生産」の三次元表示は、関根友彦氏「価値法則の必然的根拠—その論証と意義—」（愛知学院大学産業研究所報『地域分析』第 34 巻第 1 号、平成 7 年）に依拠している。